

ジェイミック スタディ <佐賀地区>

ニュースレター No. 9 2016年3月発行

2015年度の研究活動状況のご報告

佐賀大学医学部社会医学講座予防医学分野
教授 田中恵太郎

その結果、ベースライン調査に参加していただいたほとんどの皆様(96%)の5年間の健康状況の変化についてお尋ねすることができました。皆様方のご協力により順調に進みましたことに、深く感謝申し上げます。

ジェイミック スタディ佐賀地区

ご参加者の皆様へ

春暖の候、皆様方におかれましては健やかに
お過ごしのことと存じます。平素は「日本多施設共
同コーホート研究(ジェイミック スタディ)佐賀地区」
にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。

この研究は、がんをはじめとする生活習慣病の
発生に関わる要因について、生活環境と遺伝的
要因の両方から探り、一人ひとりの体質に最も合
った生活習慣病の予防法、つまりオーダーメイド
予防法の確立に役立つ情報を得ることを目的とし
て実施しています。

調査にご協力いただいていた皆様には、調査の
進捗状況とその成果を、年1回お知らせしており
ます。

★現在までの調査について

佐賀地区では、2005年から2007年に約
12,000人の皆様にご協力いただき最初の調査
(ベースライン調査)を行いました。また、5年後の
2010年から2012年に行った第2次調査では、
約8,500人の方に調査会場での調査にご参加い
ただき、調査会場に来られなかった方々にも、
郵送やお電話で健康状態を確認させていただきました。

★「追跡調査」が始まりました

調査会場に直接来ていただく調査は2012年で
終了しましたが、がんなどの生活習慣病の発症を
把握するために、郵送による「追跡調査」を、およ
そ5年ごとに続けていく予定です。

昨年(2015年)の11月には、郵送・電話による
「追跡調査」を開始しました。これまでの調査で得
られた情報と、この「追跡調査」の情報を組み合わ
せることにより、生活習慣や遺伝的要因などがど
のように病気の発生と関連するかを明らかにする
ことができます。

皆様方には「追跡調査」の目的をご理解いた
だき、これまでと同様、ジェイミック スタディにご協力
いただきますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

★研究成果の発表について

これまでに、ジェイミック スタディから100以上
の成果が研究論文として発表されました。今後も、
さらなる研究を進めていき、将来、これらの研究成
果から、次の世代に確かな病気の予防法を伝えら
れるようになることを願っています。



★研究成果のご報告

今回は、佐賀地区の研究成果から「日本人の代表的な食事パターンと肝機能」についてご報告いたします。

「健康型」の食事パターンが γ -GTP 高値を抑制する可能性がある

肝障害により肝細胞が壊れると、肝酵素が血中に放出され、高値を示します。特に、肝酵素の一つである γ -グルタミルトランスフェラーゼ(γ -GTP)は、飲酒による肝障害などがあると数値が上昇するといわれています。最近では、 γ -GTPと他の生活習慣との関連も明らかになっており、喫煙や食事などによって上昇することが分かっています。

先行研究により、肉類や油脂類などの食品の高摂取は γ -GTP 上昇と関係があることが報告されています。一方、果物や野菜などの食品の高摂取は γ -GTP 上昇を抑制することが報告されています。私たちの普段の食事は、食品を複数組みあわせて摂取していることから、日常的な食習慣を総合的に考慮した「食事パターン」を用いた研究が増えています。

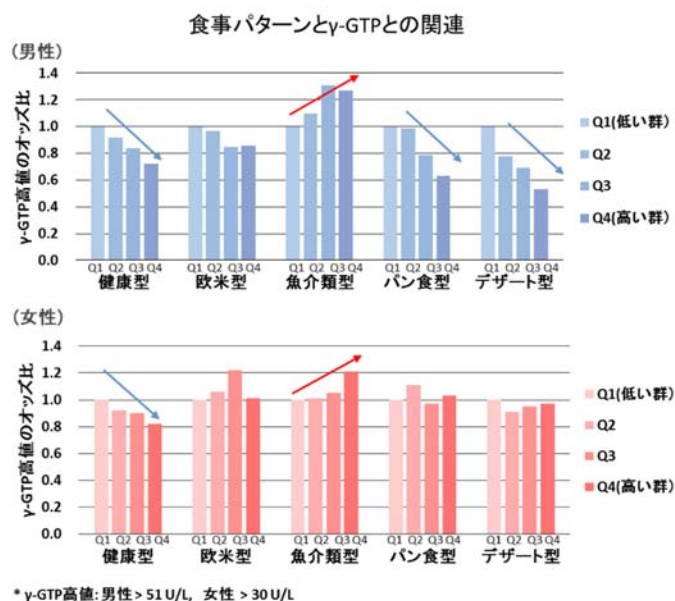
今回、ジェイミックスタディ佐賀地区のベースライン調査に参加された方のうち、男性 3,723 名、女性 6,080 名のデータを用いて、食事パターンと血中 γ -GTP との関連について調べました。日本人の特徴的な食事として、男女それぞれ5つの食事パターン(健康型、欧米型、魚介類型、パン食型、デザート型)を導きました。

◎5つの食事パターン

さまざまな種類の野菜、いも類、きのこ類や果物などの食品と関連した「健康型」、牛・豚・鶏などの肉類やマヨネーズ、炒め物や揚げ物などの食品と関連した「欧米型」、魚類、いかやえびなどの甲

殻類、貝類、たらこやいくらなどの魚卵などの食品と関連した「魚介類型」、パン、マーガリンやコーヒーなどの食品と関連があり、一方、ごはんや味噌汁と負の関連がある「パン食型」、果物やお菓子などの食品と関連した「デザート型」の5つ食事パターンを抽出しました。

男女ともに「健康型」の食事では γ -GTP 高値を抑制する傾向がみられ、一方、「魚介類型」で γ -GTP 高値となるリスクが上昇する傾向がみられました。男性のみ「パン食型」、「デザート型」で γ -GTP 高値を抑制する傾向がみられましたが、女性ではこの傾向はみられませんでした。「欧米型」の食事では、男女ともに明らかな傾向はありませんでした。

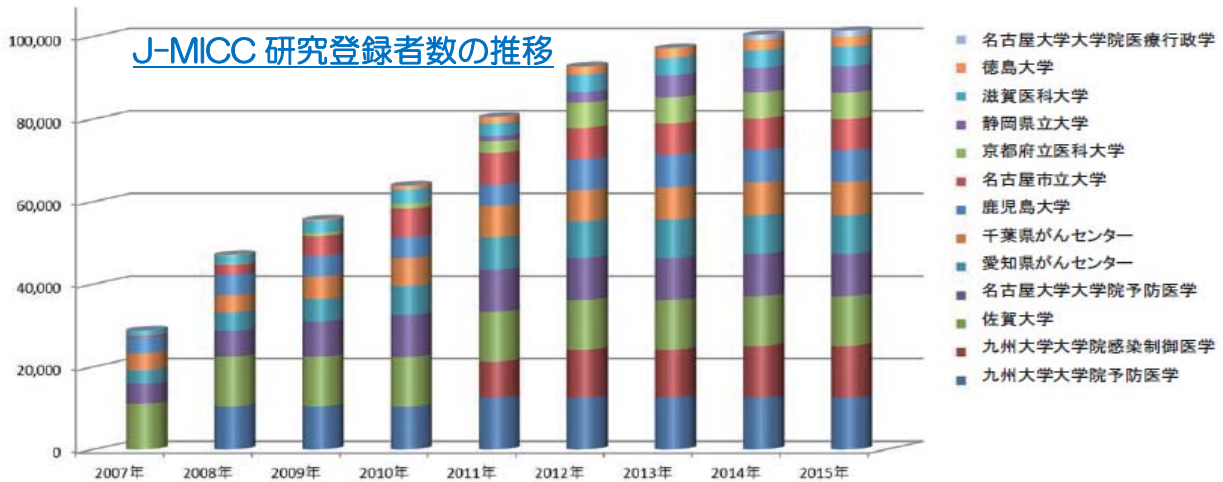


このことから、日常的な食習慣が血中 γ -GTP に影響を与えている可能性が考えられました。今後の更なる研究により、 γ -GTP 上昇の予防に役立てられることが期待されます。

出典 : Nanri H, Hara M, Nishida Y, Shimanoe C, Nakamura K, Higaki Y, Imaizumi T, Taguchi N, Sakamoto T, Horita M, Shinchi K, Kokaze A, Tanaka K. Dietary patterns and serum gamma-glutamyl transferase in Japanese men and women. J Epidemiol 2015

日本多施設共同コーホート（J-MICC）研究 10 周年記念シンポジウムが開催されました

2015 年 12 月 11 日に、愛知県がんセンター国際医学交流センターにおいて、「日本のゲノムコーホート研究の未来」と題して 10 周年記念のシンポジウムが開催されました。ゲノムコーホート研究とは、遺伝情報や生活習慣が疾病発生にどのように関連するかを探るために集団を長期間追跡する研究をいいます。シンポジウムでは、J-MICC 研究活動の 10 周年の歩みを振り返るとともに、国内の主なゲノムコーホートの代表の研究者や若手研究者による発表を通じて、これからの 10 年間、日本のゲノムコーホート研究をオールジャパン体制で推進するために、J-MICC 研究のあり方について話し合いました。



この図は、J-MICC 研究に参加登録頂いた方の人数の推移を示しています。J-MICC 研究は、2005 年に文部科学省の科学研究費の支援により、8 施設でスタートし、現在までに、全国で 13 の研究機関が参画し、研究を進めてまいりました。10 年後の 2015 年までに、全国で 10 万人の皆様のご協力を得ました。

佐賀地区は、その中でも最も早い 2007 年に、ベースラインの調査を終えた地域で、J-MICC 研究をリードしてまいりました。下の写真は、ベースライン調査、および、5 年後調査に携わったスタッフです。調査会場でお目にかかったスタッフ以外にも、郵送や電話連絡を担当したスタッフ、頂いた血液を凍結保存するために実験室で処理をしたスタッフ、記入して頂いた調査票をパソコンで入力したスタッフなど、総勢、30 名以上がこの調査にかかわりました。



調査開始時（2005 年 11 月）



5 年後調査開始時（2010 年 11 月）

現在実施中の「(10 年後)追跡調査」には、ベースライン調査時からのスタッフ数名が参加して調査を進めており、皆様のご協力を楽しみにしています。

疫学研究者の日常や、研究にかける思いを
ご覧ください

J-MICC 研究では、研究内容や、研究にかける研究者の思いを、国民の皆様幅広く知って頂けるように、ホームページ上で特集を組んで、全国各地の調査機関の研究者のインタビュー記事を掲載しています。佐賀地区も昨年7月にインタビューを受けました。

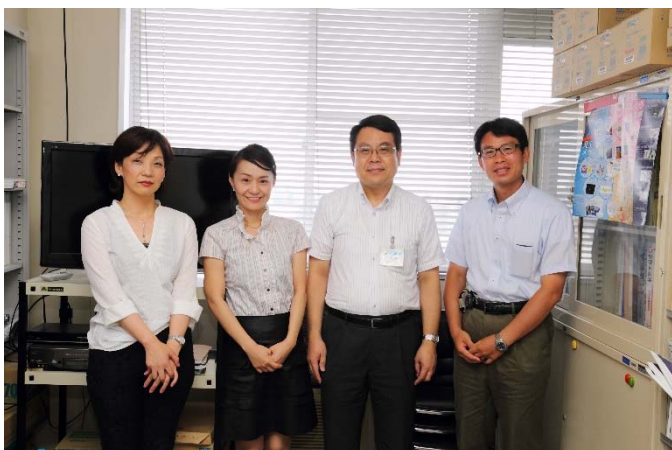
<http://www.jmicc.com/feature/feature01-05/>
そのインタビューに回答させていただいた内容の一部をご紹介します。

—J-MICC 研究の意義をどうお考えですか？—

回答：J-MICC 研究は、遺伝子-環境間の相互作用を解明するためのコホート研究です。日本人の生活習慣など環境要因に関しては先に走っている疫学調査がたくさんありますが、そこに遺伝要因についての評価を加えるというのは、今後必要な方向性だと考えています。

—J-MICC 研究の今後について—

回答：J-MICC 研究は全国疫学調査ではありませんが、佐賀大学で得られたデータは佐賀市内の方のものですから、まずは追跡調査で得られた結果をしっかりと市民に役立てることが重要です。



—疫学研究において大切にしていることは？—

回答：疫学研究は多くの方が対象となりますが、結局は一人ひとりの方の協力から成り立っているということを肝に銘じています。

他にも、私たちの日常の研究風景も取材されました。ぜひ一度ご覧ください。

佐賀地区では、全国の研究者と協力して、これまでに収集した情報や測定結果をまとめながら、遺伝的素因や生活習慣が血液・尿検査の結果および生活習慣病におよぼす影響についてさらに検討をすすめていきます。今後とも、ジェイミック スタディへのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



** 研究成果の公開ホームページ **

ジェイミック スタディの研究成果から、論文の内容に関するわかりやすい解説を、以下のホームページでご覧いただけます。

◇ 佐賀大学医学部社会医学講座予防医学分野
—J-MICC 佐賀地区参加者の皆様へ—
<http://www.prevent.med.saga-u.ac.jp/jmiccsaga.html> (佐賀地区)

◇ ジェイミック スタディホームページ
—J-MICC Plus— (全体研究)
<http://www.jmicc.com/index.html>

【お問い合わせ先】

佐賀大学医学部社会医学講座予防医学分野
ジェイミック スタディ担当係



〒849-8501 佐賀市鍋島 5-1-1
電話 0952-34-2289
ファックス 0952-34-2065